

# 心の教育

## 人権週間

12月1日から12月9日まで、人権週間でした。今年度のテーマも、「互いの違いを認め、尊重しよう」です。コロナ禍で、子どもたち同士がコミュニケーションを取りづらい状況が続いています。相手を知る、自分と友達は違うということ意識するきっかけになるよう、全校で「絆を感じよう」という活動に取り組みました。毛糸を人との会話や関わり方、インターネット上のやり取りに見立て、互いの思いや違いを感じながら関わり合うことについて考えました。

ふだんは見えないけど、けいとがあるともだちとつながっていることがわかりました。ともだちがかなしいと、いとがゆれて、わたしにもつたわってくるから、ともだちになにかあったらすげたい。

け糸がぼくのゆびでプルプルかんじた。け糸玉を見ていたらぐるぐるかんじた。毛糸をひっぱられたらいたかった。毛糸でもともだちとつながることがわかった。

友達と毛糸で結ばれると、振動を感じる事ができて楽しかったし、友達と仲良しなんだなとつながりを感じる事ができました。友達が毛糸を引っ張ると自分も痛いなあと思いました。これからは友達と絆を深めていきたいと思いました。

人との絆、気持ち、心、いろいろなことがつながっているんだなということがわかりました。これからは、心と心の絆を大事にして、友達との関わりやいろいろな人との関わりを広げていきたいと思えます。



一人がゆらゆらしたらみんなの絆がゆれるから、つながっていると感じた。また、糸がピンとする時と、からまってしまう時もあったから、絆もいろいろな人とつながっていると感じた。

「絆を感じよう」の活動は、人間関係の可視化だな、とぼくは思いました。糸の巻き方やボールの投げ方にも気づかいや思いやりが出ているなと思えました。

糸でつながることで、私たちの行動や発言は、他の人に大きな影響・小さな影響を与えていることを実感しました。これからは、自分の行動や発言が「どんな影響を与えるのだろうか?」と考えられるようにしていきたいと思いました。

## 児童支援専任より

人権週間では、全校で「絆を感じよう」という活動に取り組み、目に見えないインターネットでのやりとりや人と人とのかかわりを毛糸に見立て、可視化し、相手がどう感じ、どう思うのかについて考えました。

本来、相手がどう思い、どう感じているのかは、相手の表情や態度、言葉で表出されることがありますが、すべてが表出されるわけではありません。「もし自分だったら…」と、相手の立場に立って物事を考え、想像力を働かせて、相手の感情を読み取ることも必要です。「もし、自分の家の敷地に知らない人が入って来たら…」「インターホンが鳴ったから応答したのに、誰もいなかったら…」などと自分事として捉えることができるように、日々、子どもたちに声をかけています。

道路の歩き方、踏切の渡り方も同様です。道路を急に横切ったらどうなるのか。踏切の警報音が鳴っているのに、のんびり歩いたり、渡り始めたりしたらどうなるのか。その先にある危険を想像すること、予測することは、子どもたちの命を守ることに繋がります。

ぜひ、ご家庭でも、相手の立場になって考えたり、自分の行動の先に何があるのかを想像したり、ちょっと立ち止まってお子さんと一緒に考える機会を作っていたらと思います。

